

## 「環境科学シンポジウム－むつからのメッセージ」

- 開催日： 平成 17 年 11 月 10 日（木）～11 日（金）  
開催場所： プラザホテルむつ  
（青森県むつ市下北町 2-46、JR 大湊線「下北駅」下車徒歩 3 分）  
主催： 独立行政法人日本原子力研究開発機構むつ事業所  
独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所  
財団法人日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所  
後援： 青森県教育委員会、むつ市、むつ市教育委員会

## プログラム

### 第 1 日： 11 月 10 日（木）

15:00～15:05 開会挨拶 日本海洋科学振興財団（平野拓也 理事長）

15:10～16:10 3機関研究活動・成果報告

15:10～15:30 海洋研究開発機構むつ研究所（木下 肇 理事）

15:30～15:50 日本原子力研究開発機構むつ事業所（伊藤治彦 所長）

15:50～16:10 日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所（中野昭二郎 常務理事・  
所長）

（16:10～16:20 休憩）

16:20～17:10 講演「海洋地球船『みらい』による南半球周航観測航海 BEAGLE」

金子郁雄 海洋研究開発機構 地球環境観測研究センター 海洋大循環  
観測研究プログラム 大循環力学グループ グループリーダー

（17:10～17:20 休憩）

17:20～18:20 特別講演「三内丸山遺跡—明らかになってきた全体像」

齋藤 岳 青森県教育庁文化財保護課

三内丸山遺跡対策室 文化財保護主幹

（18:20～18:30 休憩）

18:30～20:00 懇親会

**第 2 日 : 11 月 11 日 (金)**

9:00~9:05 **開会挨拶** 日本原子力研究開発機構 (木村 良 理事)

9:05~9:35 **セッション 1: 実験観測手法** 座長: 天野 光 (日本原子力研究開発機構)

「海洋における自動 $\gamma$ 線計測機器の整備」 島 茂樹

(日本海洋科学振興財団 海洋研究部)

9:35~10:35 **セッション 2 : AMS、年代測定、古環境、考古学** 座長: 天野 光

(日本原子力研究開発機構)

「AMS の現状—主に  $^{14}\text{C}$ -AMS について」

小林紘一 ((株)パレオ・ラボ AMS 年代測定施設、

元東京大学原子力研究総合センター 助教授)

「タンデトロン AMS の開発と利用の現状」

北村敏勝 (日本原子力研究開発機構むつ事業所 施設部)

(10:35~10:50 休憩)

10:50~11:30 **セッション 3: 海水循環** 座長: 淡路敏之 (海洋研究開発機構)

「日本海中・深層の水塊形成と海水循環」

千手智晴 (九州大学応用力学研究所)

11:30~12:10 **セッション 4: 地球環境変動** 座長: 淡路敏之 (海洋研究開発機構)

「 $\text{C-14}$  等を用いた北太平洋における数十年スケール 変動の解析」

熊本雄一郎 (海洋研究開発機構 地球環境観測研究センター)

(12:10~13:00 昼食)

13:00~14:00 **ポスターセッション(責任時間)**

< 日本原子力研究開発機構=原子力機構 >

「日本海における粒子状物質の輸送過程」

乙坂重嘉 (原子力機構)

第2日：11月11日（金）（続き）

「JAEAにおける加速器質量分析装置を用いた I-129 応用研究」

○鈴木崇史<sup>1</sup>、北村敏勝<sup>2</sup>、甲 昭二<sup>1</sup>、磯貝啓介<sup>3</sup>、伴場 滋<sup>3</sup>、片山 淳<sup>4</sup>、  
亀尾 裕<sup>4</sup>、桑原 潤<sup>1</sup>、坂本信也<sup>1</sup>、外川織彦<sup>5</sup>、天野 光<sup>1</sup>（<sup>1</sup>原子力機構  
施設部 AMS 管理課、<sup>2</sup>原子力機構施設部、<sup>3</sup>分析センター分析部 自然放  
射能グループ、<sup>4</sup>原子力機構バックエンド推進部門 廃棄物確認技術開発グ  
ループ、<sup>5</sup>原子力機構原子力基礎工学研究部門 環境動態研究グループ）

「日本海における人工放射性核種の蓄積量の見積もり」

○伊藤集通、乙坂重嘉、川村英之（原子力機構）

「日本海における海洋環境評価システムの構築」

○川村英之（原子力機構）・小林卓也（原子力機構）・広瀬直毅（九大応力研）・  
伊藤集通（原子力機構）・外川織彦（原子力機構）

<日本海洋科学振興財団＝海洋財団>

「六ヶ所村沖合堆積物中の放射性核種蓄積状況」

○小藤久毅、賀佐信一、澤藤奈都子、森 将志、中山智治、西澤慶介、  
久慈智幸、伊勢田賢一、島 茂樹、河村日佐男（海洋財団）

「AMSによる三内丸山遺跡木柱の<sup>14</sup>Cの測定」

○賀佐信一、河村日佐男（海洋財団）

「SEA-GEARNによるビキニ環礁周辺における核実験の北太平洋への  
影響の試算」

○松浦康孝、中山智治、印 貞治、賀佐信一、島 茂樹（海洋財団）、  
小林卓也、外川織彦（原子力機構）、石川洋一、淡路敏之（京大大学院）

<海洋研究開発機構>

「西部北太平洋域の Station KNOT における溶存無機炭素の経年変化に  
ついて」

○脇田昌英<sup>1</sup>・渡邊修一<sup>1,2</sup>・村田昌彦<sup>2</sup>・熊本雄一郎<sup>2</sup>・佐々木建一<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>海洋研究開発機構 むつ研究所、<sup>2</sup>海洋研究開発機構 地球環境観測  
研究センター）

「植物プランクトン分布と一次生産量の変動－太平洋赤道域において  
ENSO が及ぼす影響について－」

松本和彦（海洋研究開発機構）

**第2日：11月11日（金）（続き）**

「北西部北太平洋観測定点における  $^{234}\text{Th}$  を用いて見積った POC flux の季節変化」

○川上 創・本多牧生（海洋研究開発機構 むつ研究所）

<東京大学・学習院大学>

「東大 MALT の  $^{129}\text{I}$ -AMS システムと土壌中の  $^{129}\text{I}$  分析」

○松崎浩之（東大・工）、村松康行（学習院大・理）加藤和浩（東大・工）  
高田ゆかり（学習院大・理）

「冷湧水起源炭酸塩沈殿物のヨウ素-129 測定の可能性について—マリアナ前弧域、蛇紋岩海山産炭酸塩を例として—」

○加藤和浩、松崎浩之（東京大学大学院工学系研究科 原子力国際専攻、MALT）、村松康行、高田ゆかり（学習院大学理学部 化学科）

<北陸大学>

「石川県内で採取した樹木年輪中のトリチウム及び  $^{14}\text{C}$  濃度の長期的変動」

○安池賀英子<sup>1</sup>，山田芳宗<sup>1</sup>，小村和久<sup>2</sup>（<sup>1</sup>北陸大・薬，<sup>2</sup>金沢大・理 LLRL）

14:00～15:20 **セッション 5: 海洋における物質循環** 座長：河村日佐男（海洋財団）

「マクロとミクロの目でみたヨウ素の地球化学的挙動」

村松康行（学習院大学 理学部）

“Energy source or green house gas : I-129 and the origin of marine gas hydrates”

Dr. Udo Fehn（Univ. of Rochester, Rochester, NY, USA）

（15:20～15:30 休憩）

15:30～16:20 **セッション 6: シミュレーションモデルとその適用** 座長：島 茂樹  
（海洋財団）

「データ同化による海況の監視・解読・予測」

淡路敏之（海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）

16:20～16:25 **閉会挨拶** 海洋研究開発機構（木下 肇 理事）